

動けなくなることで、
見えてきたもの

風は生きよという

宍戸大裕 監督作品

呼吸器から吹く風に乗り、つながりあう人と人との物語

監督・撮影・編集・ナレーション：宍戸大裕 音楽：末森樹 整音：米山靖 アニメーション：植田秀蔵 撮影協力：神吉真輔 高橋慎二

宣伝写真：齋藤陽道 宣伝デザイン：玉利公節 助成：公益財団法人 キリン福祉財団 企画・製作：全国自立生活センター協議会

配給：「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

www.kazewaikiyotoiu.jp



存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、
それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。
今までこんな風に見たことはなかった。
存在理由を獲得していく彼らの姿が遅しく眩しく映っていた。
世界を救うヒーロー・ヒロインに見えてきた。
川口有美子【作家・日本ALS協会理事】

「出来ないことがたくさんある中で、
障害者が出来る大きい仕事ってというのは、
外に出て人目について、
人の意識の中に障害者の存在を
ちよつとでも根付かせていくこと」

人工呼吸器は、呼吸を助ける道具です。
そこから吹いてくる風が、人と人とをめぐり合わせてくれます。

風は生きよという

追い風は、ときどき前からふいてくる。

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かさなく
なったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。
特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用している
ことくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、
浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの
人に出会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。
じんわりとこころを揺する、人と人とが織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かせない、そんな日が来た時は思い出してほしいです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。その風に包まれた人と人とが、支えあ
いながら生きていたことを。

“海老原さん在住” 東大和上映会・ご案内

2016年3月12日(土)午後7時～9時
東大和市民会館ハミングホール(小ホール)
前売り券 1,200円 / 当日券 1,500円

障害者及び介助者1名・小中学生 1,000円 ※字幕・音声ガイド・手話通訳あり

【チケット販売所】 東大和市社会福祉協議会 TEL042(564)0012 中央 3-912-3
自立生活センター東大和 TEL042(567)2622 南街 1-22-6 シティコート南街 1 階
カフェレストランPACE(パーチェ) TEL042(843)6375 奈良橋 5-814-14
CDショップ セキグチレコード TEL042(562)0801 南街 5-1-3
喫茶どっぽ TEL042(565)5182 南街 1-19-5

後援: 東大和市、東大和市教育委員会、東大和市社会福祉協議会、東大和市医師会、社会医療法人財団 大和会、東京都自立
生活センター協議会(TIL)、認定NPO法人DPI日本会議、全国自立生活センター協議会(JIL)、バクバクの会～人工呼
吸器とともに生きる～、東京社会福祉士会、東大和市共同作業所連絡会、東京都(申請中) ※2016年1月15日現在

連絡: 障害福祉サービス事業所PACE(パーチェ) TEL042(843)6375
※PACEでもチケットを販売しています。平日9時から17時までご連絡下さい。

穴戸監督と
海老原さん
のトーク
セッション
もあります